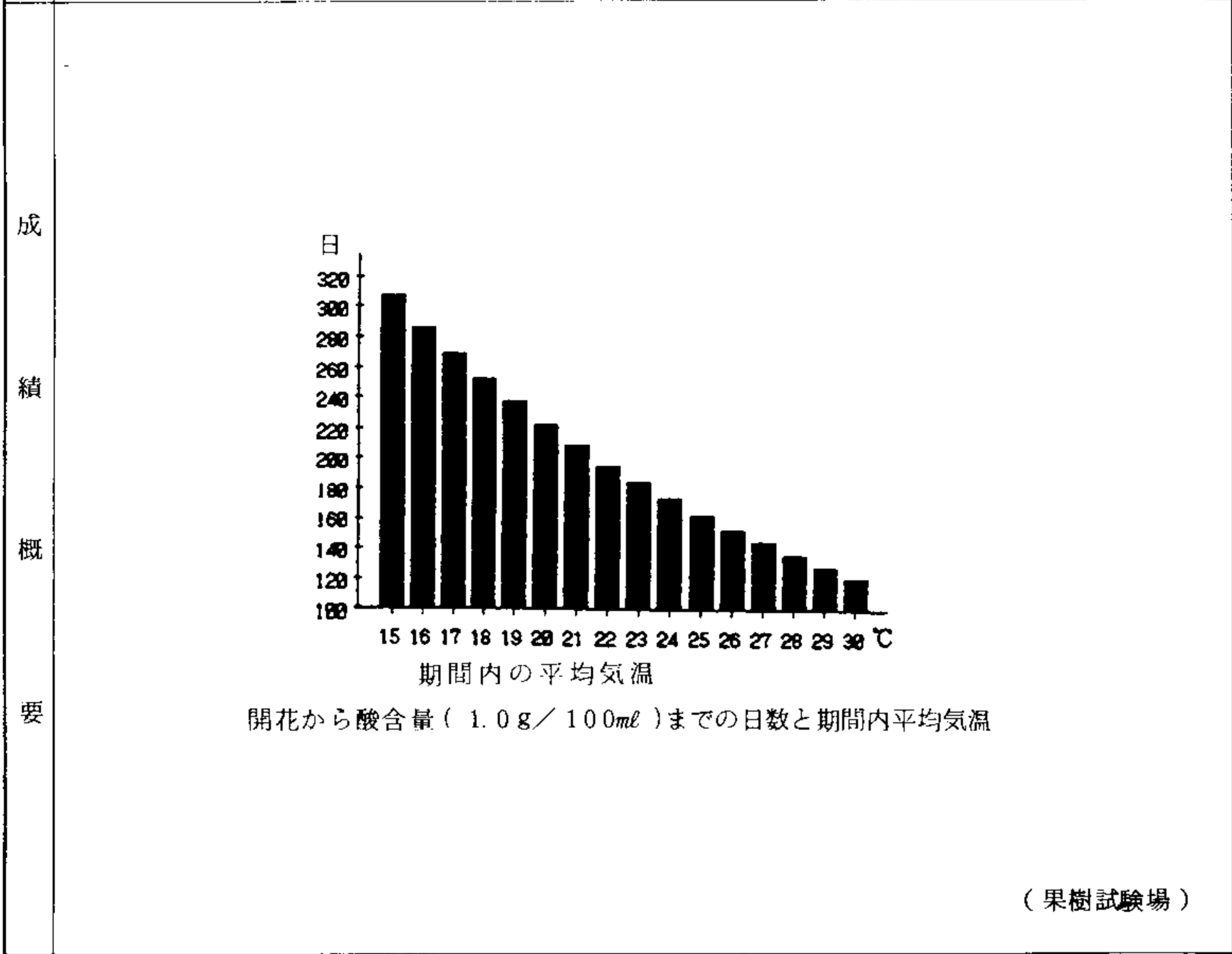


課題名 48. 早生温州ミカンの酸含量と気温との関係

成果の要約 1977年から1987年までの果樹試験場内の宮川早生の酸含量と気温を用い、一定の酸含量に達するまでの期間の逆数の対数値とその期間内の気温の平均に273を加えた温度(絶対温度)の逆数との相関関係を求めた。

1. 一定の酸含量に達するまでの期間と期間内の気温との相関は、酸含量が1.2に達するまでは小さかった。
2. 酸含量が1.0になると両者の相関係数は0.8以上になり、平均気温との相関が最も高くなった。
3. 酸含量が1.0に達する期間とその期間内の平均気温との間に $V = 13.22 - 545.63 X$ の回帰式が得られた。
4. この回帰式で試算した場合、期間内の平均気温 1.0°C の違いは日数にして約10日に相当する。



普及上の留意点